

令和元年度 学校評価

伊予市立中山小学校

令和2年2月

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切に する子 徳	○人権・同和教育の推進と一人一人の特性に応じた特別支援教育の充実	○児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。	A	○職員間で、児童の特性や実態、個に応じた支援方法などについて話し合い、共通理解のもと支援を行っている。伊予市特別支援教育巡回相談員や教育相談の先生方からのアドバイスを受けたことを生かして学級担任が個に応じた指導をしている。課題の量の調整、安全確保のための支援員の配置など、合理的配慮を行っている。 ●今後も関係諸機関等との連携を大切にして、児童の実態把握を多面的に行い、児童の特性や実態に応じた授業改善に努める。	教職員アンケート	A	22	78	0	0
		【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定			保護者アンケート	A	25	68	7	0
	○友達に対して、思いやりのある行動や言動がとれている。	【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○教員100%、保護者90%、児童95%が肯定し、目標を達成しているが、本来は100%を目指したい項目である。思いやりがあっても行動に移せなかったり、相手への思いやりが行き違いになってしまったりするケースもある。方策としては、既に縦割り班活動やスマイルの木などで実践しているが、今後はさらに、活動の際の声掛けや親切にされたことを全体に伝える機会や場を増やしていきたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0
					保護者アンケート	A	19	71	10	0
					児童アンケート	A	35	60	5	0
	学校関係者評価委員の所見	思いやりのある行動についての、教職員、保護者、児童の結果にずれがあるのはどうか。 アンケートの回答で、「1」「2」を選んだ理由の記入はないのか？理由が分かればよいと思う。 4月と今の子どもたちの雰囲気が違う。特に高学年が落ち着いていて、優しい言葉遣いもできているように思う。	学校の対応	アンケートの回答をする際、児童は自分のことを、保護者は自分の子どもについて、教職員は学校全体を見て判断しているので、ずれてしまうのだと考える。 アンケートの最後に、自由記述欄を設けて書いていただくようにしているが、項目ごとに記述するようにはしていない。自由記述欄への記入もあまり多くないので、より記入しやすい形を検討していきたい。 今後も少数の利点を生かして、きめ細やかな指導を心がけたい。						

【評価基準】 A: 目標を達成(80%以上) B: おおむね達成(60%以上) C: あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切に する子 徳	○つながり合う力を育む縦割り班活動・交流活動の充実	○豊かな関わりを育む異年齢集団活動が充実している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○異年齢集団活動を実施可能な回数(月2回)に対して9割以上実施	A	○縦割り班活動は児童も大変楽しみにしており、縦割り班遊びの時間には縦割り班ごとに元気よく遊ぶ姿が見られる。集団で遊ぶ楽しさを体感している。掃除や2学期の遠足も縦割り班で行っている。遠足では高学年児童が低学年児童に優しく接したり、清掃では下学年の児童が高学年から掃除の仕方を教えてもらったりするなど、同学年の児童との交流だけでは味わえない経験を得ている。今後も縦割り班活動を続けて行きたい。 ●縦割り班活動の効果をさらに高めるために、今後は心の交流を充実させていきたい。縦割り班遊びの後に、感想を伝え合ったり、お互いのよいところを伝え合ったりする場面を設け、活動で終わることなく心の交流も図っていきたい。	教職員アンケート	A	56	44	0	0
					保護者アンケート	A	43	55	2	0
						児童アンケート	A	79	19	2
					異年齢集団活動		月平均 1.8 回			
	○教育相談の充実及びいじめの未然防止、早期発見・対応の徹底	○いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努めている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○概ね目標を達成しているが、情報のキャッチや対応が遅れてしまうケースもあった。現在も毎月心のアンケートを実施したり、職員会の際に教職員間で情報交換を行ったりしているが、それ以上に児童や保護者からの情報や考え方について配慮していくことが大事だと思われる。改善策としては、それらの情報をもとに、トラブルの未然防止になる言葉掛けや人間関係作りについて、日々努力していきたい。	教職員アンケート	A	56	44	0	0
					保護者アンケート	A	11	84	5	0
					いじめ・不登校状況		いじめ・不登校 0件			
	学校関係者評価委員の所見	縦割り班活動についての結果が、保護者と児童とでずれがある。		学校の対応	児童は、学校行事や学校生活における縦割り班での活動に十分に満足していると思われる。縦割り班活動は、少人数の学校にとって異年齢の児童の人間関係を深める上で大切であると考えられる。これからも、様々な活動を通して上学年の児童がリーダー性を発揮するとともに、相手を思いやる言動や態度が身に付くようにしていき、保護者にも伝えていきたい。					

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果					
							4	3	2	1		
考え 表現する子 知	○個に応じた学習指導の充実と基礎・基本の徹底	○発達段階に応じた基礎的な学力が身に付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上肯定 ○漢字・計算検定で9割以上の児童が合格(合格90点) ○放課後ぐんぐん学習を月3回以上実施 ○県調査において、県平均正答率以上の児童の割合7割以上 ○自主学習ノートの活用回数(低:週3回以上、中週4回以上、高6回以上)	B	○計算検定の学年平均は、合計点9割以上の割合が、90%を超えている。また、全校で取り入れているステップ式の計算問題を解く算数ぐんぐん学習に児童たちは意欲的に取り組んでいる。ぐんぐんスタディ(補充学習)では、児童の学習進度に合わせて、個に応じた内容で学習に取り組めるようにしている。自主学習ノートの活用回数も、全児童が目標(低:週3回、中:週4回、高:週6回)を達成している。 ●5年生対象の県調査において、県平均以上の児童の割合は、5割程度である。基礎学力をしっかりと身に付けさせると共に、自分の考え方を説明する力や応用する力も育てていきたい。 ●家庭学習では、学年の目標時間を達成している児童がほとんどである。自主学習の内容が、一人一人の児童の学力を向上させるための内容になっていない場合もあった。学年の発達段階に応じて、自主学習の仕方を見直すとともに、内容例や工夫して学習している児童のノートを紹介して、自主学習の内容充実を図っていきたい。	教職員アンケート	B	0	78	22	0	無回答2%	
					保護者アンケート	B	14	62	19	3		
					児童アンケート	A	97			3		
					漢字検定	A	90点以上 学年平均85%					
					計算検定	A	90点以上 学年平均91%					
					補充学習(月平均)	B	月2.3回					
					県調査	C	5年50%					
	自主学習ノート(回数)	A	学年平均81%									
		○主体的・対話的で深い学びに向かう授業の充実	○教師一人一人が「主体的・対話的で深い学びに向かう」授業づくりに努めている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○社会科における研究授業を実施した。グループに分かれ、今まで学んだことから、話し合っ自分たちの意見をまとめたり、お互いの考えを資料を見せながら伝えたりする授業を展開し、それらについての研究協議を行って授業力向上に努めることができた。また、講師の先生に来ていただき、児童の表現力についてご指導いただき、授業改善に生かすことができた。また、体験活動を積極的に取り入れ、振り返りを行うことで児童の学習に対する意欲を引き出すよう努めた。 ●それぞれの学年で、児童の発達段階に合った対話的な学習に取り組んだが、今後も、より深い学びにつながるような対話活動の工夫を行っていきたい。	教職員アンケート	A	0	89	11	0	無回答2%
						保護者アンケート	A	13	77	8	0	
児童アンケート						A	57	43	0	0		
○自分の思いを相手にはっきりと伝えることができる。		【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	●自分の思いや考えを進んで伝えようとする児童もいるが、積極的になりにくい児童もいる。また、伝えようとするが声が小さくなったり早口になってしまったり、語尾がはっきりせず、最後まで伝えきれなかったりすることもあり、相手意識を育てる必要性を感じる。少人数での活動が続くとお互いの意思疎通が得意やくなる反面、伝える必要性や目的意識がもちにくくなる場合もあるので、教職員は、課題意識を持ち、活動の工夫を行って児童に指導をしていかなければならない。	教職員アンケート	B	0	78	22	0		
					保護者アンケート	B	8	55	30	5		
					児童アンケート	B	21	51	22	5		
学校関係者評価委員の所見	自分の思いを相手にはっきりと伝えることは、昔からの課題だと思う。最後まではっきりと言えないことがあるのは、中山の子の特徴だと思う。同級生同士でもっと仲間意識をもって競い合ったり、切磋琢磨し合ったりする気持ちがあれば、さらに伸びていくのではないか。5年生の県学力調査で、県平均以上が50%でCだが、5割なら普通ではないのか。		学校の対応	自分の思いを伝えることは長年の課題ではあるが、相手意識をもたせて、発達段階に応じた指導を続けていきたい。基礎学力の定着はもちろんだが、子どもたちが共に考え、学び、新しい発見が生まれる授業づくりに努めていきたい。								

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる 気で 頑張 る子 体	○気持ちのよい挨拶・握手、返事・履物の整頓等生活習慣の定着	○進んで気持ちのよい挨拶ができる児童が育っている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	●挨拶については、児童自身は90%できていると感じているが、教師・保護者は約70%で、意識に差が20%ある。校内では挨拶回りなどの活動を通して、よく頑張れているが、家庭内での挨拶ができているかについては、課題も感じられる。改善策としては、特効薬はないので、月目標に応じて頑張っている子を紹介したり、日々の生活で挨拶の意義について話し合ったりして本物の挨拶が浸透し、身に付くよう根気強く努力していきたい。	教職員アンケート	B	0	67	33	0
					保護者アンケート	B	17	54	29	0
					児童アンケート	A	48	44	8	0
					地域アンケート	A	40	52	4	0
	○様々な体力づくり活動の日常化による個に応じた体力の向上	○発達段階に応じた体力が付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○H30年度新体カテストの課題である「立ち幅跳び」の記録が、1学期より2学期で上回る児童の割合が8割以上	A	○新体カテストの握力、立ち幅跳びにおいて、1学期より2学期の記録が上回る児童が、8割以上であった。体育において、体力アップの時間やITスタジアムの参加、縦割り班活動を行う中で、運動をする楽しさやおもしろさを感じている児童が多く、体力向上の一要因だと考えられる。新体カテストにおいて、D,Eの児童が全体の約25%(17名)いた。体育の授業だけでなく、なわとびや業間マラソンの機会を増やし、全校的に体力向上を目指していきたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0
					保護者アンケート	B	14	64	22	0
児童アンケート					A	65	32	3	0	
学校関係者評価委員の所見	挨拶は、児童の結果が高い。児童はよくできていると感じている。新体カテストで、「D、E」の児童が25%は、少し多いのではないか。		学校の対応	児童は、学校内では他の学級を回って挨拶をしたり、教師に対して挨拶したりしているので、評価が高いと思われる。保護者は、家での挨拶や地域での挨拶を見ているのでそこに差があるのではないか。学校では、いい挨拶ができてよかったという体験を増やし、将来に結びつくような挨拶にしていきたい。 スポ少などで運動を習っている子どもと、ゲームやテレビを見て過ごす子どもとの2極化が課題となっている。縄跳びや業間マラソンの期間を伸ばすなどして、運動の機会を増やしていきたい。						

無回答
4%

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる 気で 頑張る 子	○家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」の推進	○早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が定着している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○毎月、生活リズム調べを行い、児童の実態把握に努めている。朝食の摂取状況は、「毎日食べている児童」が90%以上いる。また、毎日食べない児童は0%であった。 ●早寝は学校が設定している目標時刻に、平均して寝られている児童は44.5%であるが、習い事をしている児童も多い。そういった児童も、習い事の日以外は、目標時刻に寝ている傾向が見られる。 ●昨年度は、保護者で「1」「2」と回答した割合は36%であったので、少し改善されている。生活習慣が定着していない児童は限定されており個別の支援が必要と考える。	教職員アンケート	A	22	78	0	0
					保護者アンケート	B	27	47	21	5
	児童アンケート	A	43	43	14	2				
	体	○食生活に気を付けるとともに、健康管理に努め、毎日元気に生活している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	○欠席0の日が年間80日以上	A	○給食時間に放送を行い、食に関する意識を高めるようにしている。また、家庭科や学級活動で栄養教諭による授業を行っている。小児生活習慣病予防検診で対象となった児童には、栄養教諭や養護教諭による健康相談を実施し、課題解決に努めた。 ●苦手な食べ物がある児童がおり、量を調節して食べている。一方で、食べすぎの児童もいる。食に関する指導をさらに充実させ健康に対する意識を高めたい。 ○朝ごはんを毎日食べている児童は90%以上いる。しかし、保護者の評価ではBである。今年度はまず、何か口に入れて登校することを目標としていたため、朝ごはんの認識にズレがあったのではないかと。来年度は「何か」からレベルアップさせて指導していきたい。 ○歯科検診で追跡対象となった児童は昨年度の8名から4名へ減少した。また、4名中3名は口腔環境が改善されていた。 ●5年生は全国小学生歯みがき大会に参加した。参加した直後は児童の意識に変化が見られたが、時間がたつにつれ、意識が薄れていったので、継続指導が必要である。 ●欠席0の日間80日以上目標が達成できるよう、家庭や地域と連携し病気の予防に努めたい。	教職員アンケート	A	56	44	0
保護者アンケート						B	16	47	32	5
児童アンケート		A	54	30	11	6				
欠席0の日		77日(2/7現在)								
	学校関係者評価委員の所見	生活習慣も食生活も家庭での問題で、学校で指導するものではない。生活習慣も食生活も保護者がB評価になっている。家では甘えているのだろうか。 歯みがき大会後、時間がたつと意識が薄れてしまうのは課題。自分自身のためだという自覚がない。 スポーツなどの習い事を始めるきっかけは、本人の希望か、親がさせたいからなのか？	学校の対応	もちろん家庭の教育力が大切だが、学校では児童の実態を把握して児童や保護者に啓発している。今後もいろいろな情報を発信していきたい。 朝食については、朝ご飯の認識にズレがあったと考えられるので、来年度は、食べたかどうかだけでなく、栄養面や食べた量などについても啓発し、もっとレベルアップしていきたい。 健康に対する意識が薄れないよう、継続指導をしていきたい。本人の希望がほとんど。友達に誘われることもあるようだ。						

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果					
							4	3	2	1		
学び続ける子 知徳体	○自ら気付き、考え、実践する活動の推進	○JRC活動に積極的に取り組み、自分で気付き、考え、行動することができる。 【目標値】 ○保護者・教職員・児童の8割以上が肯定	A	○朝の挨拶運動に児童が進んで取り組んでいる。学年問わず多くの児童が自発的に行っている。また、縦割り班活動で高学年児童が困っている低学年児童を手助けするなど、自ら気付き実行する児童が見られる。今後は、スマイルの木などを活用して挨拶運動をがんばっている児童や学校のために自主的・自発的な行動を行っている児童を全校に紹介するなど、意欲を高めていく工夫をしたい。	教職員アンケート	A	0	89	11	0	無回答2%	
					保護者アンケート	B	11	66	19	2		
					児童アンケート	A	38	45	14	3		
		○自律的な学習習慣の定着と読書習慣の形成	○豊かな心と言葉を育む読書活動の推進がなされている。 【目標値】 ○保護者・教職員・児童の8割以上が肯定 ○児童の読書量が1か月8冊以上	A	○木曜日の朝の読書指導の時に、図書室を開放することによって図書室利用者が増えている。図書の貸し出し記録である読書通帳が1冊終わった児童をテレビ放送で紹介し、お勤めの本を発表することで、他の児童への啓発を行っている。また、読書ボランティアや図書委員による読み聞かせも、児童の意欲を高める手助けとなっている。読書週間の時期には「読書祭り集会」を行い、興味・関心を高めることができた。 ●新刊図書やお勤めの本の紹介の仕方をさらに工夫して、読書意欲を高めたり、読書の幅を広げたりしていきたい。	教職員アンケート	A	33	67	0	0	
					保護者アンケート	A	24	64	10	2		
					児童アンケート	A	43	40	17	0		
					1学期からの読書通帳			月平均 5.4冊(下学年) 4.7冊(上学年)				
		○目標をもち、最後まで繰り返しやり抜く心の育成	○目標をもち、最後までやり抜く心が育っているか。 【目標値】 ○保護者・教職員・児童の8割以上が肯定	A	●おおむね達成できているが、昨年度に比べ、保護者や児童の1・2の回答がわずかに増加している。児童がしっかりと自分の目標に向かって、困難なことであっても、最後までやり抜こうとすることができるように、一人一人に応じた目標を持たせ、小さな成長や伸びをしっかりと褒めるようにしていきたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0	
					保護者アンケート	B	8	60	32	0		
					児童アンケート	A	49	38	11	2		
		朝の挨拶運動は、とてもよいことだと思う。習慣づいている。小さな成長や伸びをしっかりと褒めるようにしたいというのは、とてもよいと思う。 本に親しむのは、自分の世界が広がるのでよい。読み聞かせは、朝の15分ほどだが、子どもたちは満足してくれている。読書ボランティアの声かけをしたい。		学校の対応			朝の挨拶は、朝の習慣として根付いている。今後は、心を込めて挨拶できるようにしていきたい。 行事があれば、めあてを決めて事後の感想を書かせ、心がけて褒めるようにしているので、児童は達成感を感じている。 学校に足を運んでいただく機会が増えるので、ぜひ、読書ボランティアに来ていただきたい。					

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	
学び続ける子 知徳体	○郷土を愛する心を育む地域に根ざした学習活動の充実	○地域の人・自然・文化を生かした教育活動の展開がなされている。 【目標値】 ○地域体験活動を各学年学期に1回以上実施 ○教職員・保護者・地域が8割以上が肯定	A	○各学年の学習内容に応じて、主に、生活科、社会科、総合的な学習の時間で中山の地域の自然、特産品、福祉、環境、平和に関する学習を行った。地域の方に来校していただきご指導いただいたり、地域の様々な場所に校外学習に出かけた際、直接説明していただいたりして、児童はあたたかく豊かな人間関係の中で学びを深めることができた。児童は、こうした体験学習にとっても意欲的で、実施後も満足感や充実感を得ることができている。 ●地域学習の内容については、日頃から情報収集を行い、学びに効果的な展開ができるよう取り入れ方を見直したり、工夫したりしていきたい。地域の方のあたたかいご協力により成り立っていることに感謝し、郷土を理解し、愛する児童を育てるため、今後も引き続き連携、協力をお願いしたい。	教職員アンケート	A	44	56	0	0	無回答4%
					保護者アンケート	A	22	70	8	0	
					地域アンケート	A	36	56	4	0	
					地域体験活動		学年平均2.7回				
	○学校便り、学年通信、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。 【目標値】 ○毎月1回以上学校・学級便り配布、HP更新 ○教職員・保護者・地域が8割以上が肯定	A	○学校からの積極的な情報発信が意識付けられている。定期的に発行する学校便りは保護者や地域に本校の教育活動を理解してもらえるよう心がけている。 ●学年便りは必要に応じて発行し、保護者との連携に役立っている。さらに、0.8回が1回に近づけられるように機会をとらえて作成、発行に取り組みたい。 ●HPには学校行事や授業風景などを中心に記事を掲載している。さらに、興味を持ってもらえるように内容を工夫して、更新回数を増やせるように取り組みたい。	教職員アンケート	A	44	56	0	0	無回答8%	
				保護者アンケート	A	22	72	6	0		
				地域アンケート	A	56	36	0	0		
				学校便り		月1回					
				学年便り		月0.8回					
				HP更新		月10回					
学校関係者評価委員の所見	毎月発行される学校便りを保存している。すばらしい内容だと思う。教育について、保護者や地域に知らせていただき、有り難い。保存するには、やはり紙媒体がいい。中高一貫校について。	学校の対応	学校便りを読んでいただき有り難い。今後もいろいろな情報を発信していきたい。								

【評価基準】 A: 目標を達成(80%以上) B: おおむね達成(60%以上) C: あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
業務改善	○教育の質の向上と教職員の負担軽減に向けた取組	○教職員は子どもと向き合う時間に集中できている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定	A	○放課後の水泳・陸上練習があった頃は、やはりバタバタしていたが、その後はゆとりができ、児童と向き合う時間に集中することができた。	教職員アンケート	A	50	37	13	0
		○巡回教育相談員、スクールカウンセラー等専門人材の活用と連携がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○教育相談員やスクールカウンセラーの先生から、無理のない程度にアドバイスをもらったり、修正したらいいことなどを助言してもらったりするので有り難い。今後も、専門の先生との連携を深めていきたい。	教職員アンケート	A	38	62	0	0
		○教職員は自信の専門性が高まる研修に取り組んでいる。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○それぞれの主任でしっかり活動できていると思うので、安心しながら研修に励むことができている。 ●来年度から新学習指導要領完全実施である。授業改善、プログラミング教育など、勉強しなければならない。	教職員アンケート	A	25	75	0	0
		○教職員は健康の保持とワークライフバランスの確立がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○勤務時間の記録を、ミライムで毎日行い、勤務時間を意識した業務推進を心掛けた。 ●9月、10月は運動会や陸上大会の練習もあり、超過勤務の多い時期だった。11月、12月と改善されてきているので、教職員全体で話し合っていきたい。	教職員アンケート	A	0	87	13	0
	学校関係者評価委員の所見	働き方改革といわれているが、勤務時間の軽減はできているのか。	学校の対応	放課後の水泳や陸上練習、運動会練習などのときは、どうしても勤務時間が長くなってしまった。これらの行事や練習が一段落すると、超過勤務の時間も少しずつ減ってきている。メリハリをつけて短時間で業務が終わるよう意識して働きたい。	超過勤務時間 (月45時間)	56.7 時間				
					年次有給休暇が取得しやすい (年5日以上)	12.5 日				